

# 株式会社 T&Dホールディングス

(コード番号 8795 東証第一部)

---

2018年3月11日

---

✓	T & D保険グループの概要	P. 3
✓	グループ生命保険3社の特徴	P.11
✓	中期経営計画・業績動向	P.22
✓	株主還元	P.30
✓	まとめ	P.34
✓	参考資料	P.36

---

# T & D 保険グループの概要

証券コード	8795
市場	東証一部
決算期	毎年3月31日
売買単位	100株
総資産額（連結）	14兆8,911億円（2017年3月期）
当期純利益（連結）	751億円（2017年3月期）
2018/2/28終値	1,779.5円
2017年3月期 1株当たり配当金	32.5円（うち中間配当15円）
2018年3月期 1株当たり配当金（予想）	37.5円（うち中間配当17.5円）
直接子会社	太陽生命保険 大同生命保険 T&Dフィナンシャル生命保険 T&Dアセットマネジメント ペット&ファミリー少額短期保険
従業員数（連結）	19,816名（2017年3月末）

## 金融機関時価総額順位 (2018年2月28日)

順位	社名	時価総額 (億円)
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	105,959
2	三井住友フィナンシャルグループ	66,280
3	ゆうちょ銀行	65,970
4	みずほフィナンシャルグループ	50,626
5	東京海上ホールディングス	37,146
6	第一生命ホールディングス	25,541
7	オリックス	25,296
8	野村ホールディングス	24,032
9	MS & ADインシュアランスグループホールディングス	19,768
10	SOMPOホールディングス	17,208
11	三井住友トラスト・ホールディングス	16,906
12	かんぽ生命保険	16,260
13	りそなホールディングス	14,223
14	大和証券グループ本社	12,181
<b>15</b>	<b>T &amp; Dホールディングス</b>	<b>11,655</b>
16	日本取引所グループ	9,954
17	ソニーフィナンシャルホールディングス	8,700
18	コンコルディア・フィナンシャルグループ	8,060
19	アコム	7,757
20	千葉銀行	7,685

\*銀行・証券・リース・保険等を対象

## <全銘柄>

- ⋮
- 126 大和証券グループ本社
  - 127 野村総合研究所
  - 128 小糸製作所
  - 129 明治ホールディングス
  - 130 ヤマハ発動機
  - 131 T & Dホールディングス
  - 132 味の素
  - 133 住友化学
  - 134 中部電力
  - 135 ヤマトホールディングス
  - 136 鹿島
- ⋮

# T&Dホールディングスとは

## ■ 国内生保初の上場持株会社として発足

1893年(明治26年)5月創業

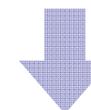


1902年(明治35年)7月創業

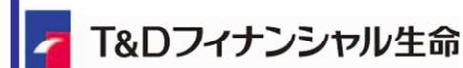


東京生命

2001年3月経営破綻



2001年10月  
T&D保険グループ入り



1999年1月 太陽生命と大同生命が全面的な業務提携

1999年6月 グループ名称を「T&D保険グループ」に決定

2003年4月

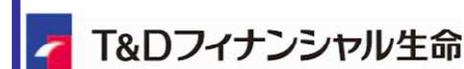
相互会社から株式会社に組織変更し、上場

2002年4月

国内生保として初めて相互会社から株式会社  
に組織変更し、上場

# T&D 株式会社 T&Dホールディングス

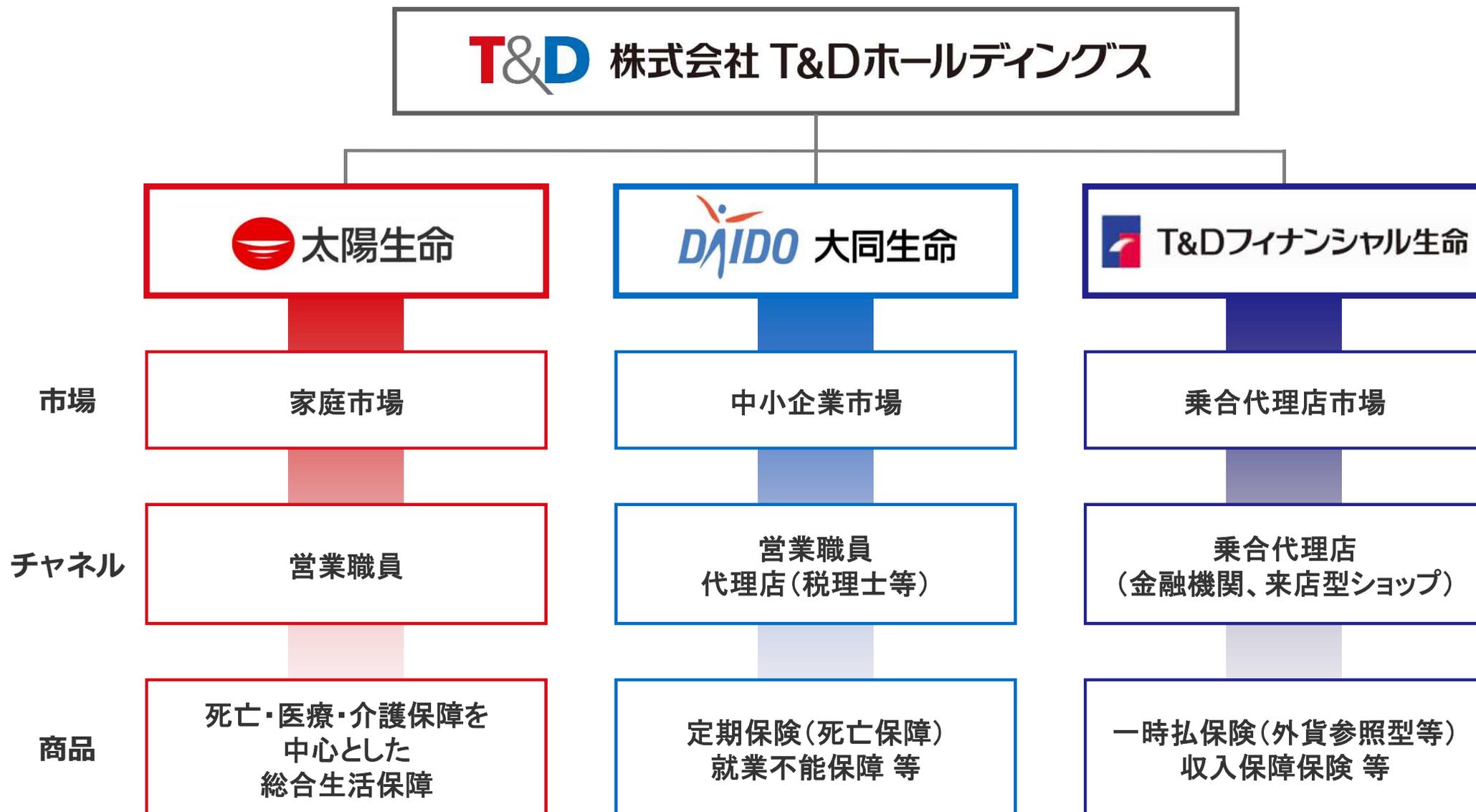
2004年4月 国内生命保険会社として初めて、持株会社「T&Dホールディングス」を設立し、上場



T&Dアセットマネジメント

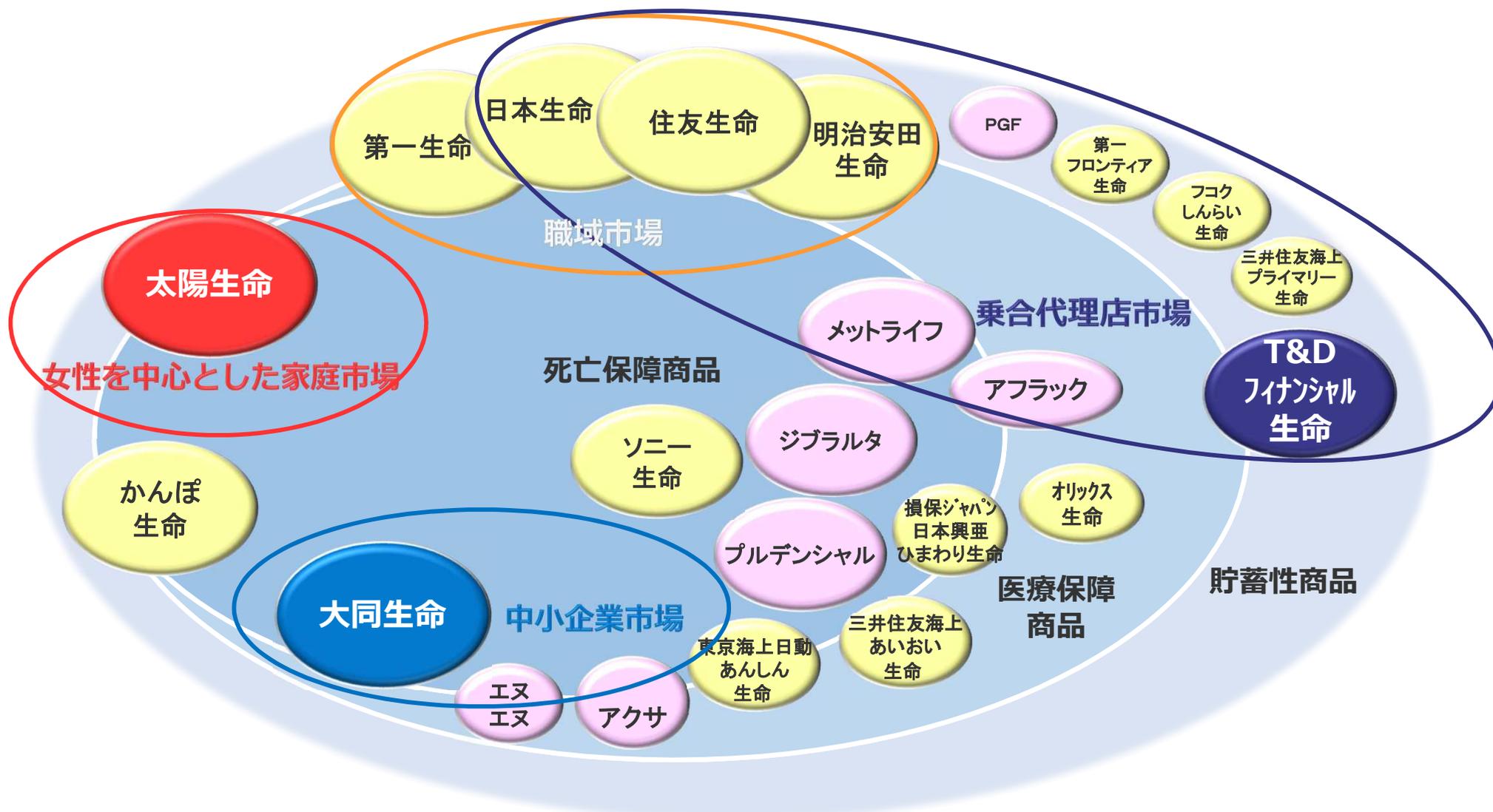


- 持株会社の組織形態のもと、中核生保3社が「独自性」「専門性」を最大限発揮



# 中核生保3社の位置づけ

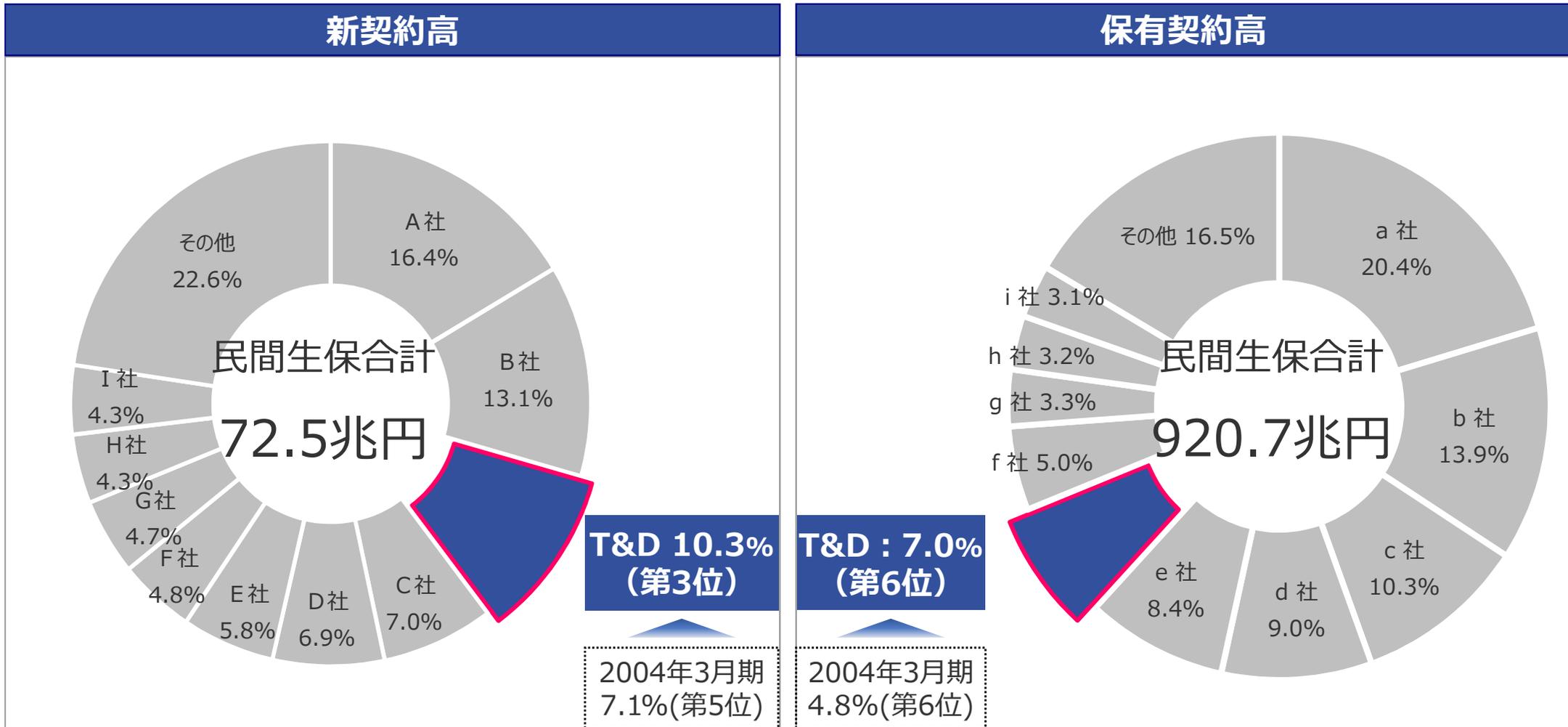
## ■ 中核生保3社は潜在成長性の高い市場に注力



\* 当社作成のため、各社の認識と異なる場合があります。

# T&D保険グループの市場シェア ～2017年3月期～

## ■ 生命保険市場で確固たる地位を確立



\*1 出所：各社決算資料より当社作成。新契約高、保有契約高は、個人保険、個人年金保険及び大同生命のJタイプ、Tタイプおよび介護リリーの合計。かんぽ生命は含まない。

\*2 T&D:太陽生命+大同生命 (Jタイプ、Tタイプおよび介護リリーを含む) + T&Dフィナンシャル生命、日本：日本生命+三井生命、第一：第一生命+第一フロンティア生命+ネオファースト生命、ブルデンシャル:ブルデンシャル生命+ジブラルタ生命 + PGF生命、住友：住友生命+メディケア生命、ソニー：ソニー生命 + ソニーライフ・エイゴン生命、MS&AD：三井住友海上あいおい生命 + 三井住友海上プライマリー生命、富国：富国生命 + フコクしんらい生命

## ■ 中核生保3社ともに高い健全性を維持

	ソルベンシー ・マージン比率*1	格付 (R&I) *2
太陽生命	838.3%	AA-
大同生命	1,239.1%	AA-
T&Dフィナンシャル 生命	1,272.2%	AA-

\*1 2017年12月末現在

\*2 2017年11月13日現在

# グループ生命保険3社の特徴

## ■ シニアマーケットでのトップブランドを構築します



### 営業活動

#### 営業基盤\*

全国 1 4 3 支社・1 2 営業所

#### 活動スタイル

女性 2 人 1 組でご自宅へ直接訪問  
(コンビ飛込み活動)

#### サービス

7 0 歳以上のお客様を年 1 回訪問する  
活動を実施 (保険金等の未請求の防止)

\* 2017年3月末現在

## ■ 「ひまわり認知症治療保険」 が好評

ご契約件数 **30** 万件\*1

お客さまの希望に合わせて保障を選択

万一の保障  
定期保険 など

就業不能・  
認知症・介護  
認知症治療保険  
など

医療保障  
入院保険 など

3大疾病保障  
特定疾病治療保険  
など

保険料  
払込免除  
総合保険料  
払込免除特約 など

資金準備  
個人年金保険 など

“くみたて自由な保険”  
保険組曲Best



1 器質性認知症\*2を保障

2 健康に不安のある方でも加入可能

3 シニアに多い所定の疾病等による入院・手術などを保障

「100歳時代」シリーズ第1弾

\*1 2017年12月末現在

\*2 器質性認知症とは、脳の組織の変化による病気です。13

## 主な取組み

国内初の「認知症予防アプリ」を提供



歩行速度を継続的に測定し、将来の認知症・MCI(軽度認知障害)のリスク予兆が発見された場合にご本人とご家族に通知

「かけつけ隊サービス」による給付金等の請求手続きをサポート



“かけつけ隊”  
キャラクター  
いかなきゃット

「太陽生命の元気プロジェクト」の始動



「健康寿命の延伸」という社会的課題にこたえるために「従業員」「お客様」「社会」のすべてを元気にする取組み

# 大同生命の概要

- 中小企業市場における生命保険事業の“リーディングカンパニー”としての地位をより確固たるものとしていきます



CM『会社が元気な街』篇より

**DAIDO 大同生命**

中小企業関連団体との提携

税理士・会計士団体  
(TKC・各地税協等)

中小企業団体  
(法人会・納税協会)

税理士・  
公認会計士代理店  
約12,500店

営業職員  
約3,800人

損保代理店  
約1,300店

定期保険  
重大疾病保障保険等

中小企業 **37** 万社  
(大同生命の既契約者)

## 中小企業を取り巻くリスク

### 経営者・役員

### 従業員

#### 死亡リスク

- ・ 運転資金の準備
- ・ 借入金返済資金の準備
- ・ 死亡退職金・弔慰金の準備

- ・ 死亡退職金・弔慰金の準備
- ・ 人材補充・育成資金の準備

#### 就業不能リスク

- ・ 運転資金の準備
- ・ 借入金返済資金の準備
- ・ リタイア時の生存退職金の準備

- ・ リタイア時の生存退職金の準備
- ・ リタイア時の人材補充・育成資金の確保

#### 生存リスク

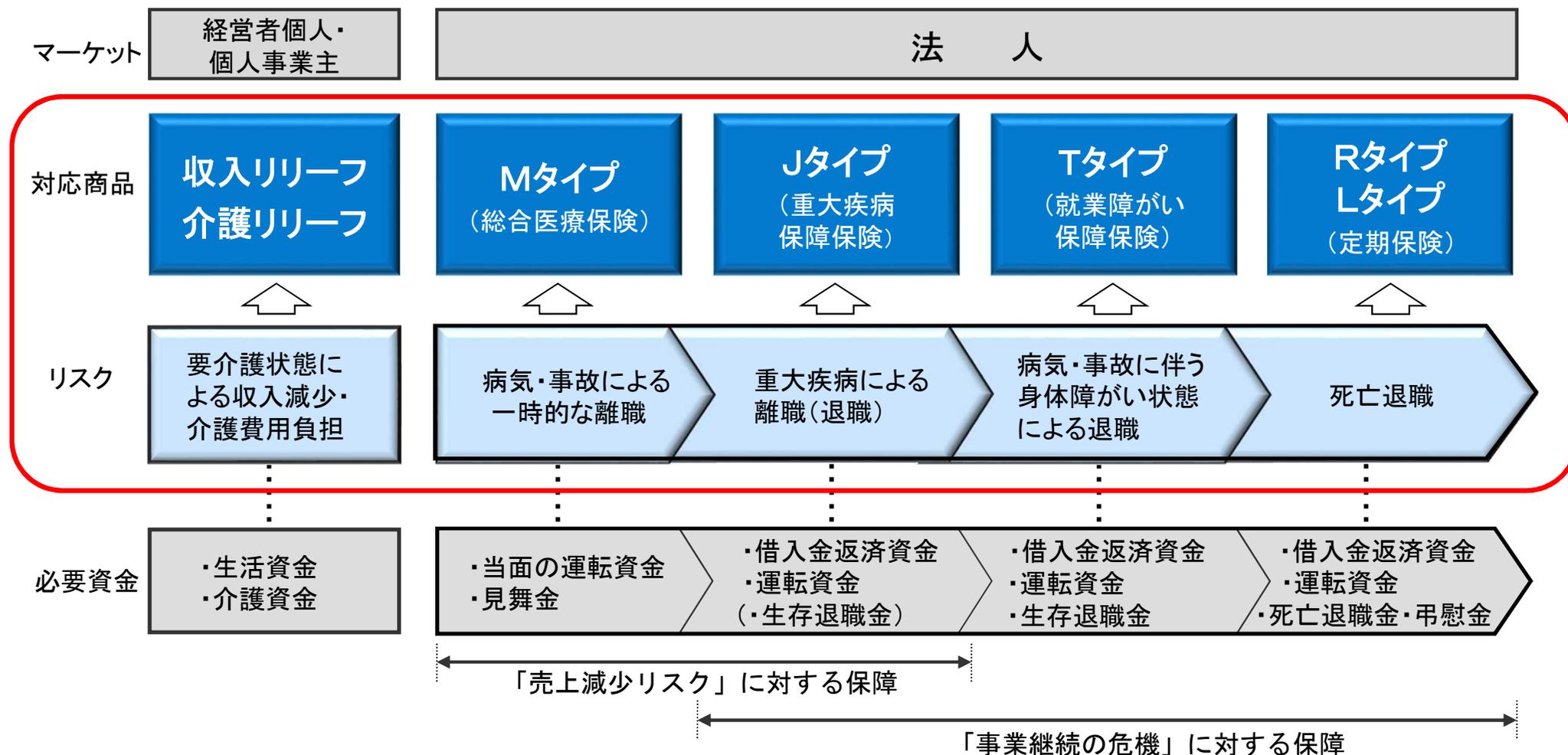
- ・ ご勇退時の生存退職金の準備
- ・ 経営資金の準備

- ・ 生存退職金の準備

\* 2017年3月末現在 国内の企業数合計は約195万社 (H24経済センサス活動調査)

## ■ 中小企業と経営者と取り巻く様々なリスクをトータルにサポート

### 中小企業を守る充実した商品ラインアップ



## 主な取組み

### 「DAIDO KENCO アクション」の推進

健康経営セミナーの開催  
Webサービス「KENCO SUPPORT PROGRAM」の提供



中小企業による「健康経営」の実践を支援することで、中小企業とそこに働く人々が生き生きと活躍できる社会づくりへの貢献を目指す

### 介護に関する課題解決を支援するサービス「介護コンシェル」を提供

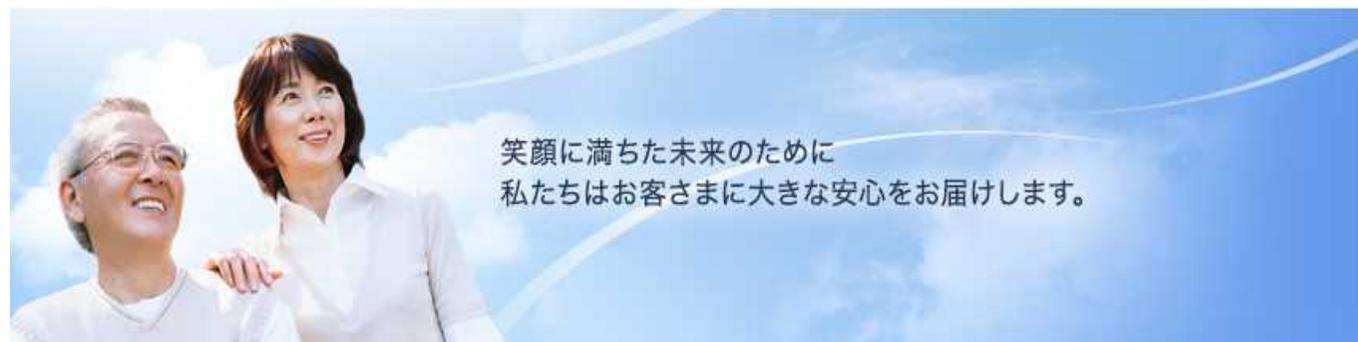
### サイバーダイン社と業務提携、「HALプラス特約」の発売



サイバーダイン社が開発・提供するロボットスーツ「HAL® 医療用下肢タイプ」による所定の難病治療を保障する業界初の商品「HALプラス特約」を発売  
(2017年7月)

# T&Dフィナンシャル生命の概要

■ さまざまなお客さまのニーズに合わせた商品を発売中

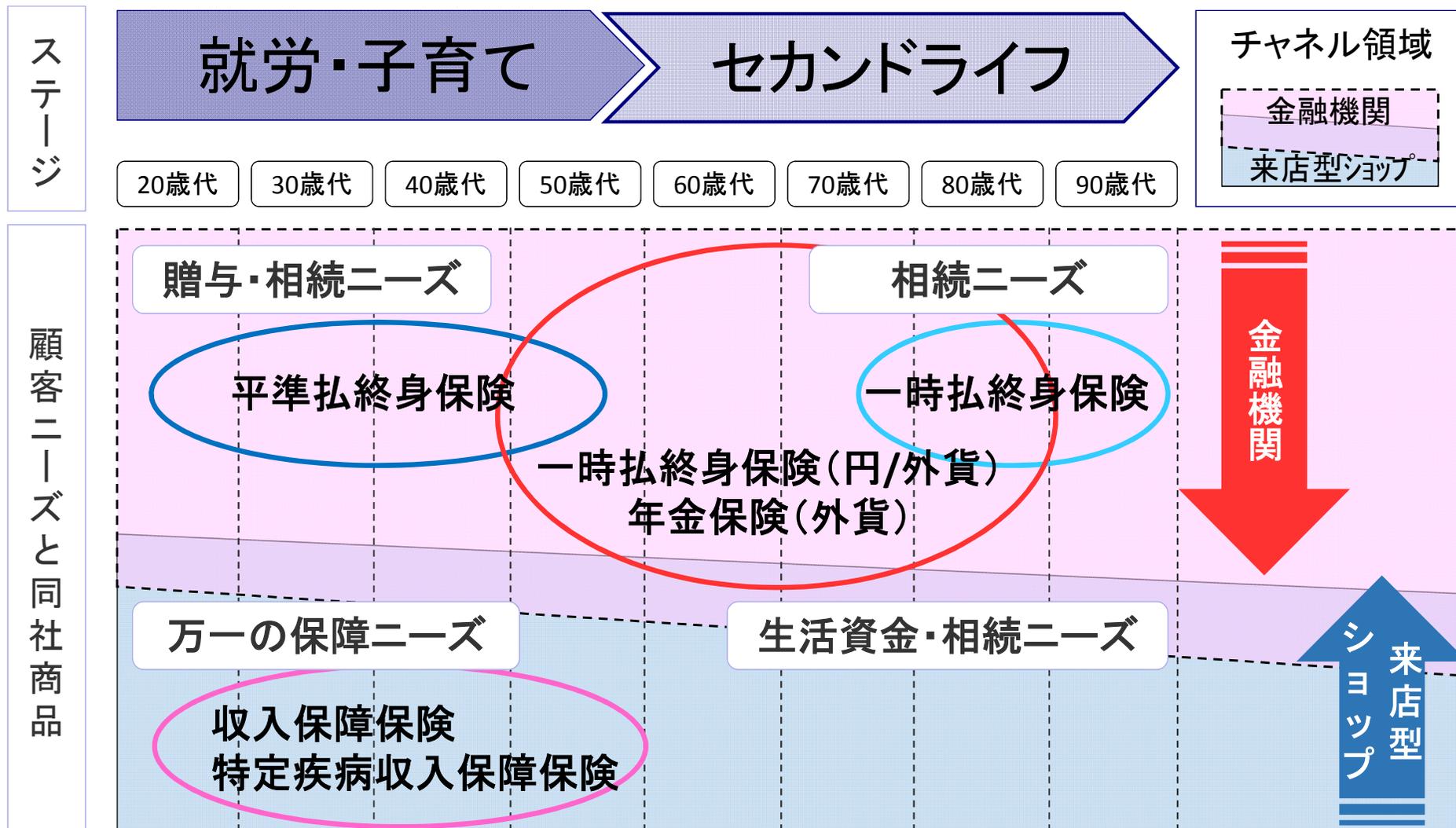


主な販売商品		商品	特徴
メインターゲット	リタイアメント世代	生涯プレミアムワールド4 生涯プレミアムジャパン4	一時払終身保険 多様な運用ニーズに対応した資産形成型商品
	就労・子育て世代	家計にやさしい収入保障	収入保障保険 ライフプランに合わせた遺族保障ニーズに対応

\* 2017年3月末現在

# T&Dフィナンシャル生命のマーケティング戦略

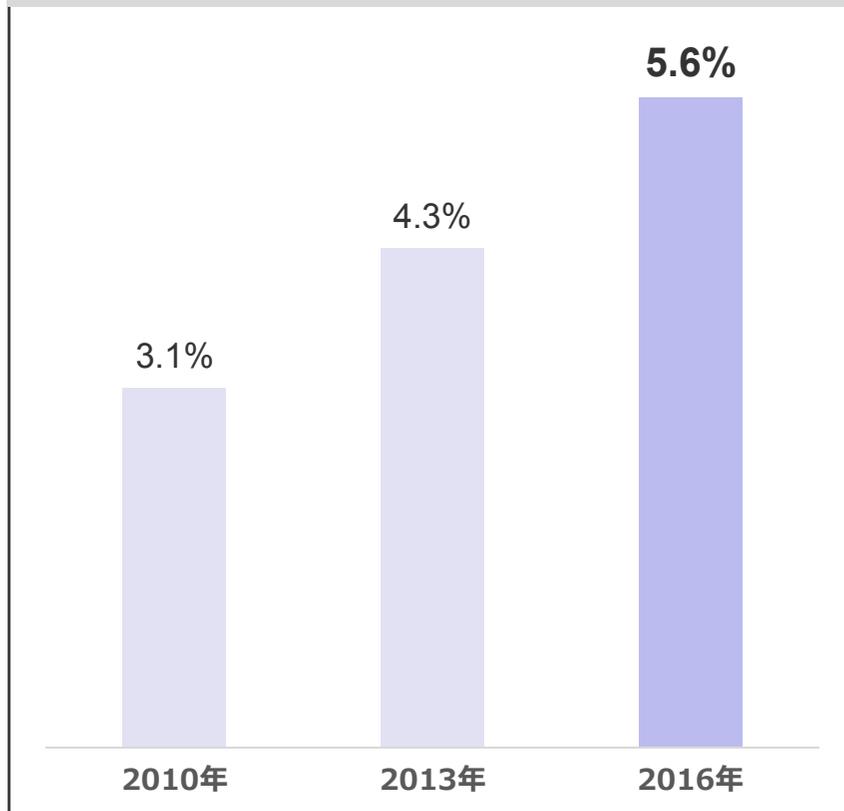
- ライフステージ・顧客ニーズに応じた商品を金融機関等代理店、来店型ショップ代理店チャンネルを通じて販売



※金融環境により販売休止中の保険を含む

## ■ 銀行窓販

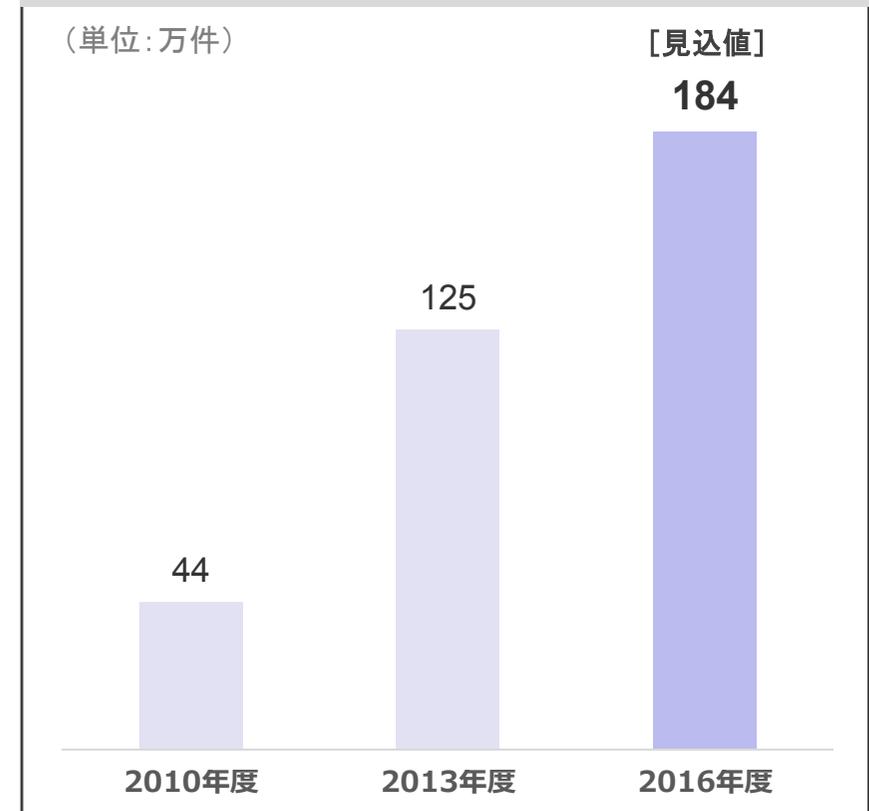
### 最近5年以内に銀行を通じて 生保に加入した割合



一般社団法人 全国銀行協会「銀行による保険窓販に関する消費者アンケート 調査結果 報告書(2017年2月)」

## ■ 来店型保険ショップ

### 来店型保険ショップの 新規契約件数



株式会社 矢野経済研究所「来店型保険ショップ市場に関する調査結果2017」(2017年4月5日発表)

(余白)

# 中期経営計画

•

# 業績動向

現中期経営計画の位置づけ:

今後10年を見据えたファーストステージとして、“成長領域を拡大する3年”

## 中期経営計画の全体方針

- 国内生命保険事業をコアとし、確立された基盤に加え、成長領域をさらに拡大すべく、シニアマーケットと乗合代理店チャネルへの取組みを強化する。
- 国内生命保険市場における競争力強化・シェア拡大、収益力向上に向け、提携やM&Aの機会を追求する。
- ERM\*の戦略的活用により、株主資本の有効活用を推進し、健全性を確保しつつ高い収益性を実現する。

\* 収益・リスク・資本を一体的に管理することにより、企業価値の増大や収益の最大化といった経営目標を達成することを目的とした戦略的な経営管理手法。

前中計期間を通じて強化した事業基盤をベースとした企業価値の増大



## 今後10年を見据えた成長領域の拡大

### ① シニアマーケットへの取組み強化

太陽生命

- シニア人口の増加や自助努力の必要性の高まり等を踏まえ、**時代の変化を先取りした「商品開発と対面サービスの強化」**を一体で推進

大同生命

- コアビジネス化を目指す「**経営者個人・個人事業主市場**」において、特に、シニア層をターゲットとする「**介護**」「**相続・事業承継**」を成長領域として強化

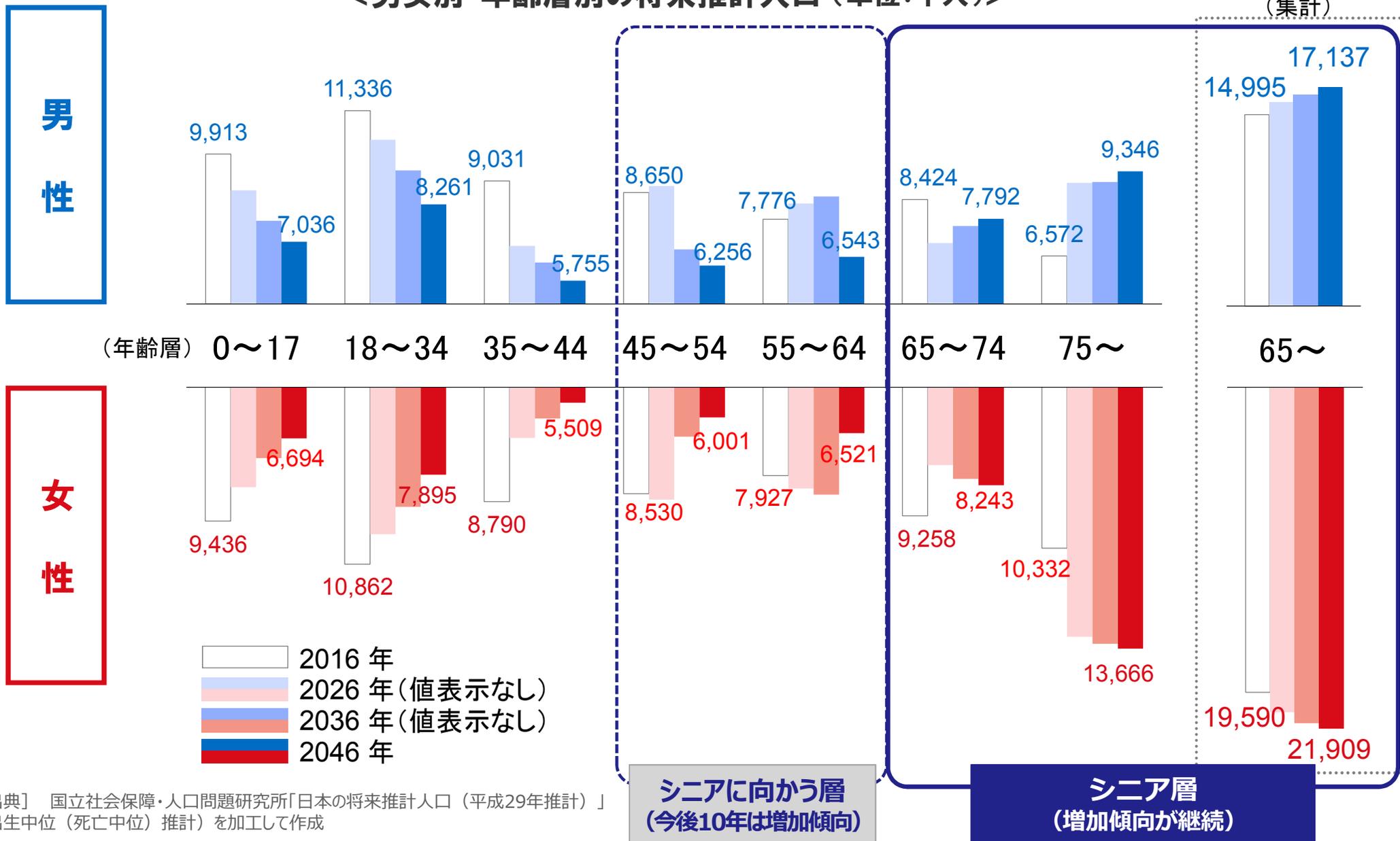
### ② T&Dフィナンシャル生命の戦略的強化

T&Dフィナンシャル  
生命

- グループ一体となり、**商品開発や資産運用等**における競争力を強化

# 【参考】将来推計人口

＜男女別・年齢層別の将来推計人口（単位：千人）＞

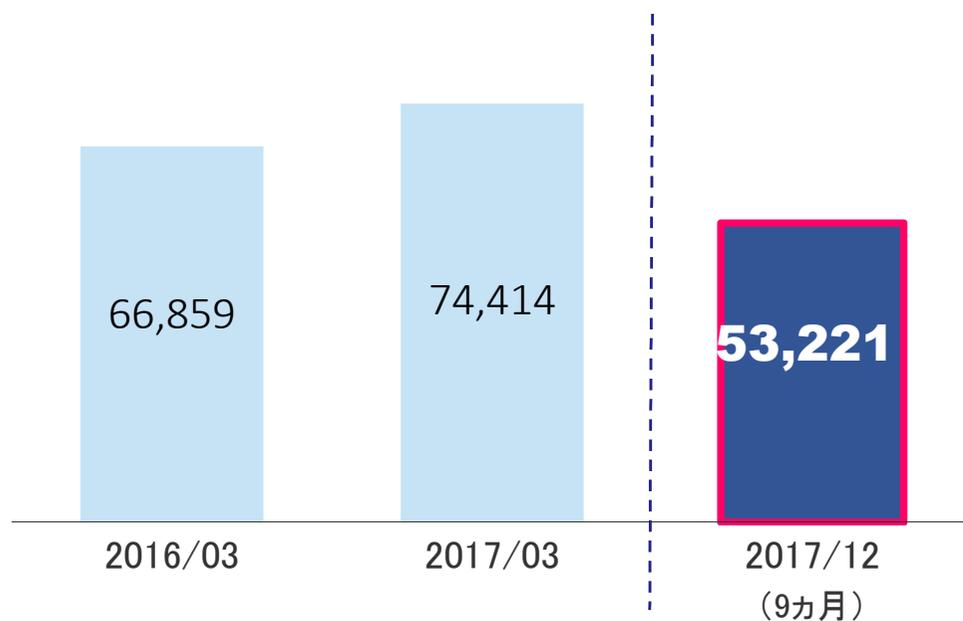


〔出典〕 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」  
 （出生中位（死亡中位）推計）を加工して作成

## 新契約高

[ 3生保の新契約高合算 ]

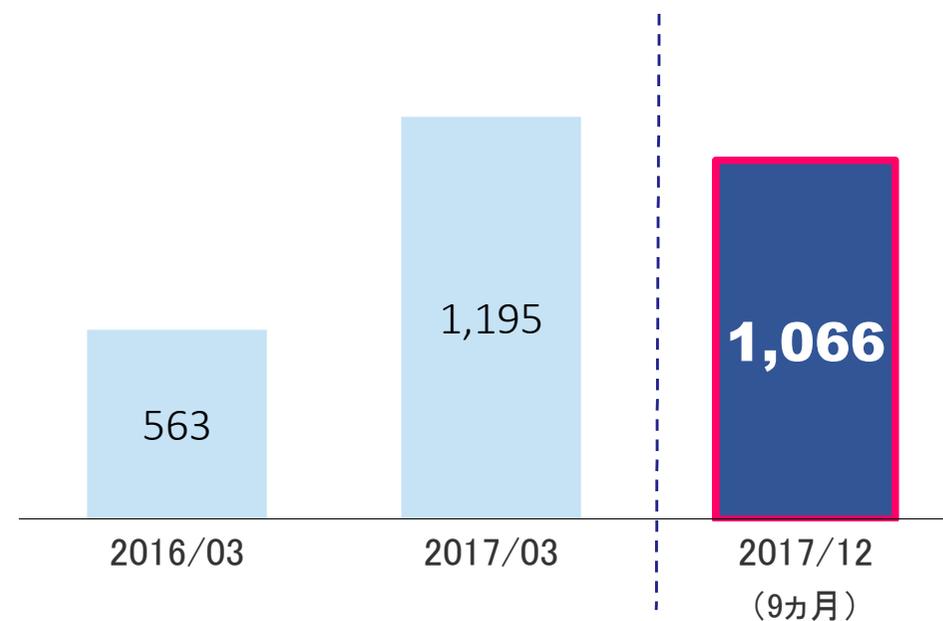
(億円)



## 新契約価値

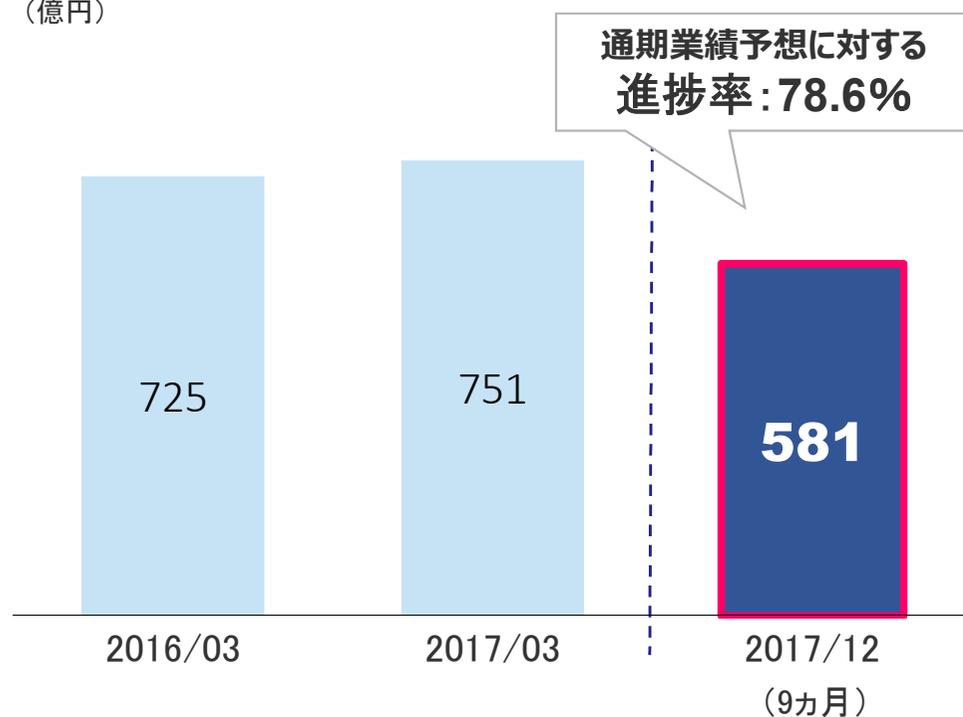
[ 新契約の将来にわたる価値の総和 ]

(億円)



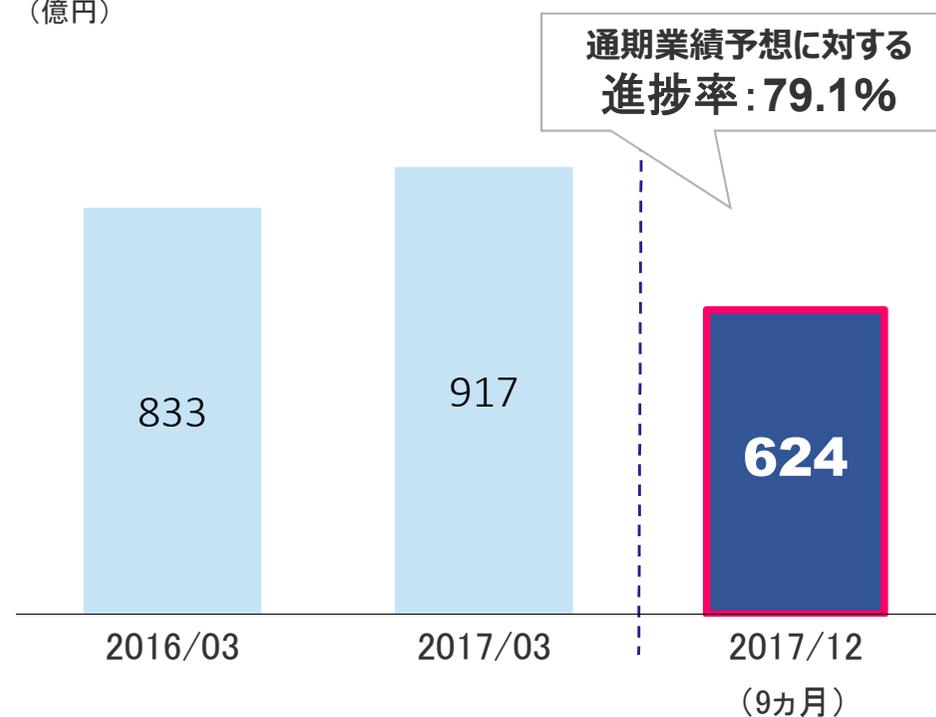
## 当期純利益\*1

(億円)



## 実質利益\*2

(億円)



\*1 親会社株主に帰属する当期純利益

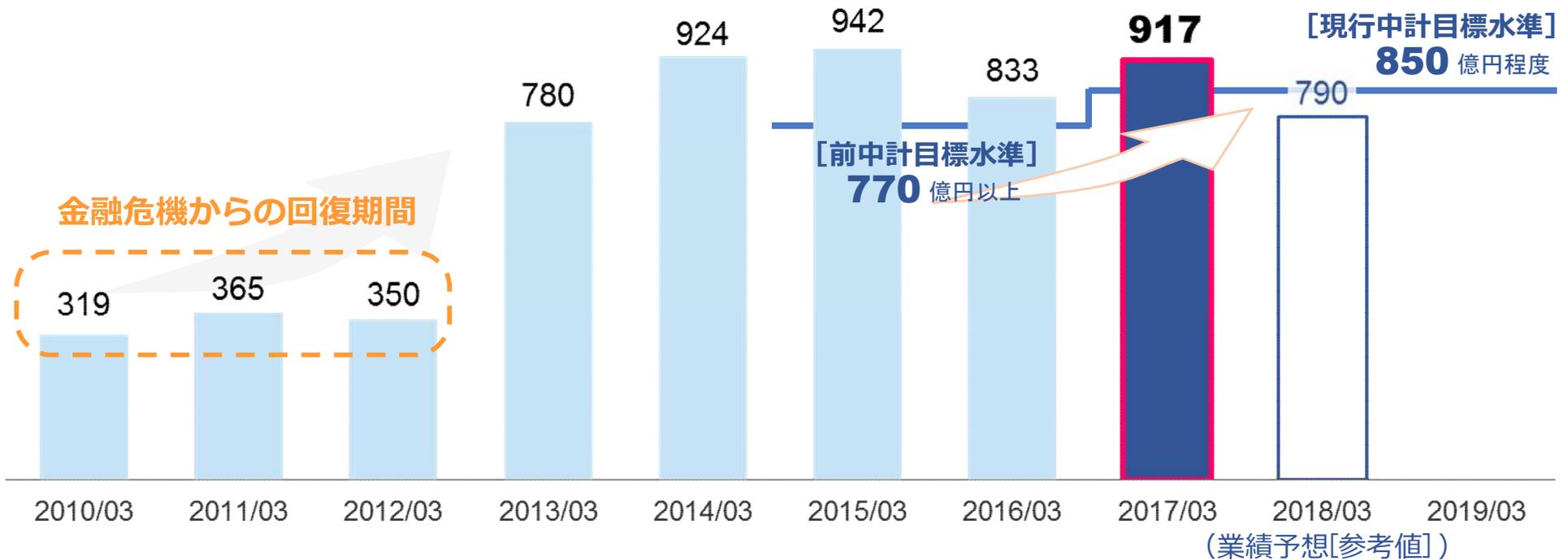
\*2 実質利益 = ①当期純利益 + ②将来のリスクに備える一部の準備金 (税引後)

②は、危険準備金および価格変動準備金の法定基準を超える繰入額。

# 【参考】利益(実質利益)の推移

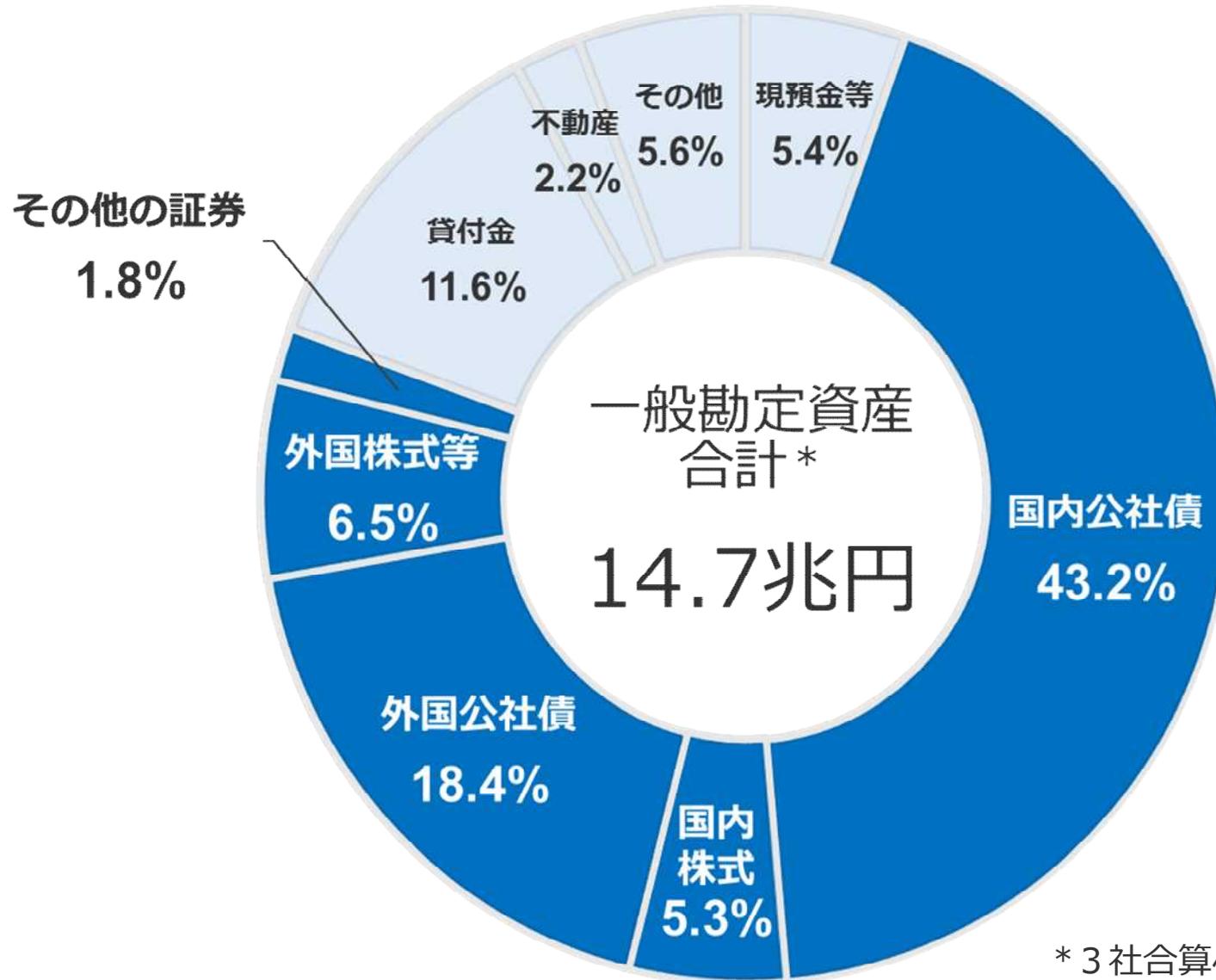
## ■ 金融危機後に回復させた高い利益水準を維持

(単位：億円)



# 【参考】資産構成比

■ 一般勘定資産の7割超を有価証券で運用



\* 3 社会算ベース（2017年3月末現在）

# 株主還元

- 安定的な現金配当および機動的な自己株式取得による総還元で実施。

## 現行中期経営計画の株主還元方針

実質利益の40%以上の株主還元を每期実施

安定的な現金配当  
中間配当の実施

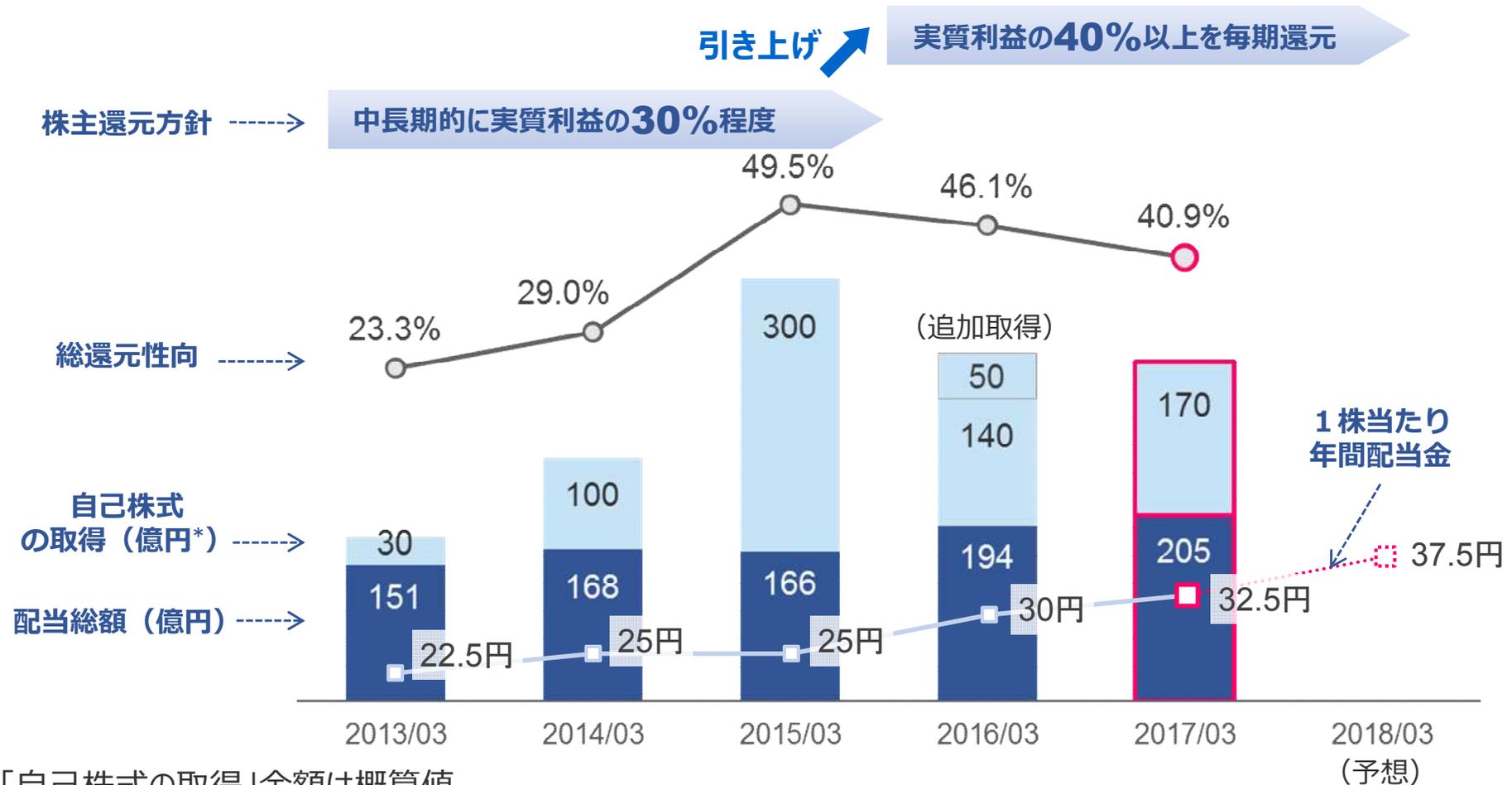


機動的な  
自己株式の取得

- \* 実質利益 = ①当期純利益 + ②将来のリスクに備える一部の準備金（税引後）  
②は、危険準備金および価格変動準備金の法定基準を超える繰入額。

# 株主還元拡充に向けた取組み①

- 中期経営計画の策定にあわせ、2016年3月期より株主還元水準を引き上げ。
- 1株あたり配当金は、2013年3月期の22.5円から2017年3月期は32.5円と安定的に増加。
- 2018年3月期（予想）は、2017年3月期から5円増配の37.5円へ。



\* 「自己株式の取得」金額は概算値

# 株主還元拡充に向けた取組み②

## 株主還元拡充に向けた具体的な取組み（2016年以降公表分）

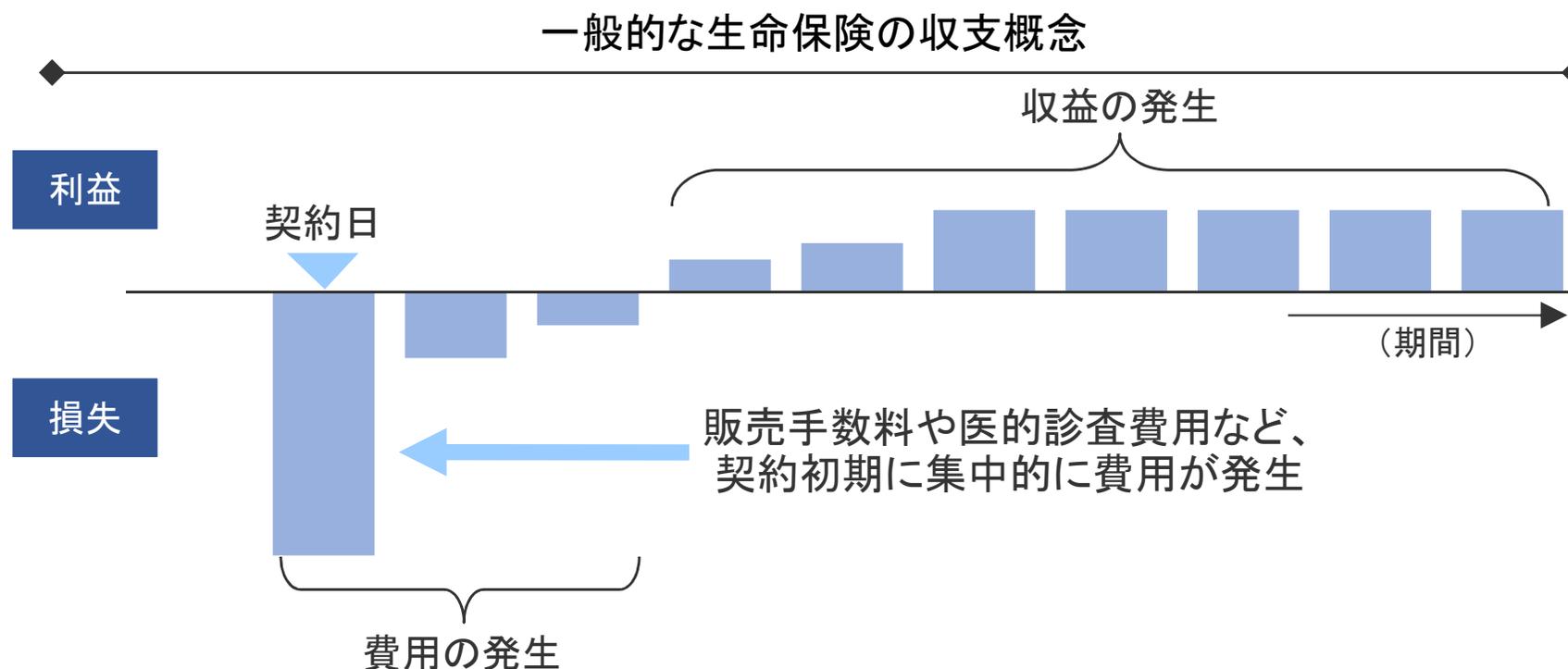
<公表時期>	現金配当	自己株式
2016年2月	・ 2016年3月期にかかる現金配当を5円増配	
2016年5月	・ 中間配当を新たに実施（2017年3月期）	・ 約140億円の自己株式を取得
2017年2月	・ 2017年3月期にかかる現金配当を2.5円増配	・ 約50億円の自己株式を追加取得
2017年5月	・ 2018年3月期にかかる現金配当(予想)を2.5円増配	・ 約170億円の自己株式を取得
2018年2月	・ 2018年3月期にかかる現金配当(予想)を2.5円上方修正（5円増配）	

# まとめ

- 特化マーケットに応じた最適なチャネルを通じて、最適な商品・サービスを一体的に提供する  
独自の事業モデル
- 業績は通期予想に沿った進捗
- 連続増配や自己株式の取得など、株主還元を充実

# 参考資料

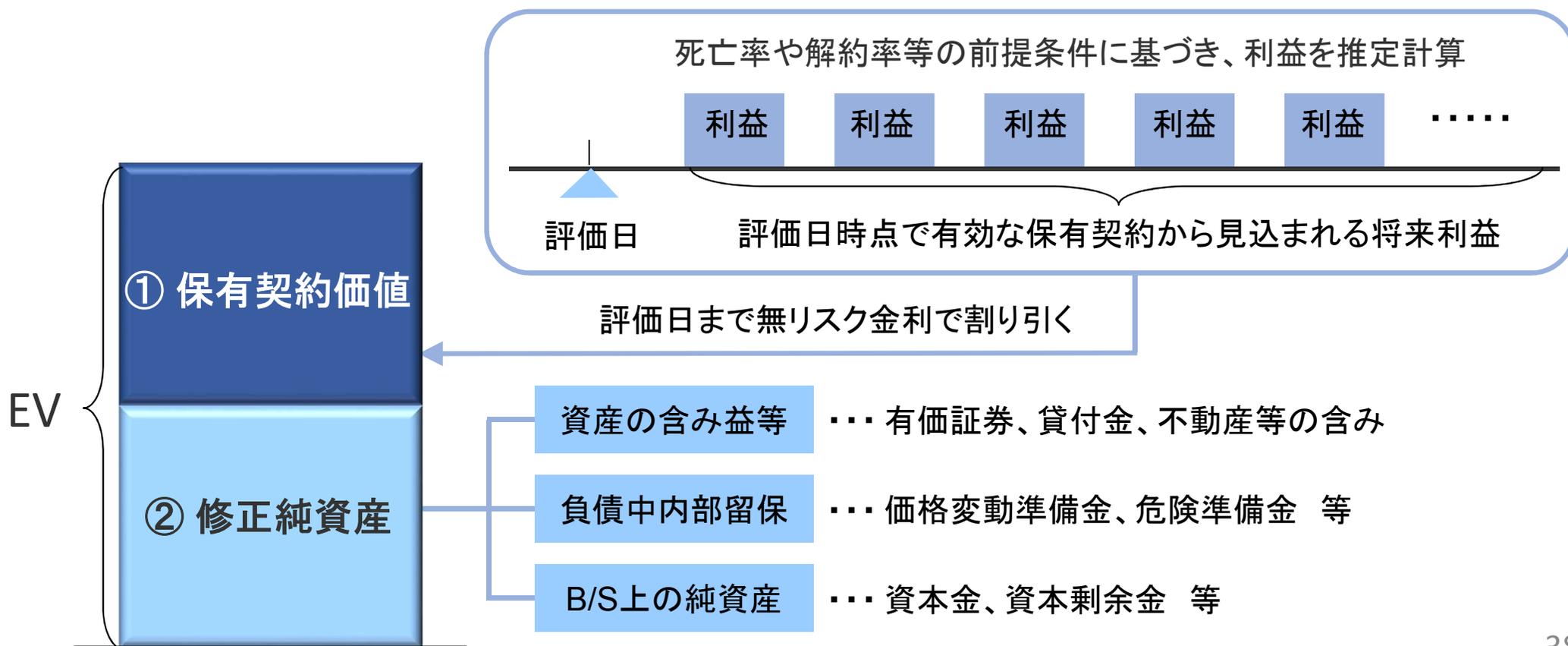
- 生命保険の契約期間は長期に亘るため、収益と費用の発生の認識にズレがある
- 単年度の会計では、契約業績が好調であれば収益が減少、不調であれば費用が減少し、収益が増加



# エンベディット・バリュー(EV)とは

■ EV（エンベディット・バリュー）とは、生命保険会社の評価日時点での企業価値（時価）を推定計算したもの

$$EV = \text{① 保有契約価値} + \text{② 修正純資産}$$



# 中期経営計画の目標指標・水準

## 【グループ連結の主要経営指標】

### 企業価値（EV）

- 2018年度末 **EV 2.4兆円** （対2015年度末 + 5,000億円以上）
  - 2018年度 **新契約価値 1,000億円** （対2015年度 + 400億円以上）
- [ EV成長率(ROEV)7.5%を超える安定的・持続的な成長 ]

### 利益（財務会計）

2016～2018年度 **実質利益<sup>(\*1)</sup> 850億円程度**

(\*1) 実質利益は、当期純利益に、負債性内部留保（危険準備金繰入額、価格変動準備金繰入額）のうち法定基準繰入額を超過した額を加算して算出（税引後）。

### 株主還元

「現金配当」+「自己株式の取得」により、**実質利益の40%以上** の還元

# 今後10年を見据えた環境認識①

## 今後10年を見据えた環境変化

### 社会環境

- ・ 少子高齢化の進展、人口の減少
- ・ 年金・医療・介護における自助努力ニーズの高まり

### 経済・金融環境

- ・ 低金利の継続と将来の金利上昇リスクの可能性の高まり

### 業界・規制環境

- ・ 標準生命表の改定、経済価値ベースの健全性指標の導入

### 技術革新

- ・ 医療技術の進歩、ビッグデータやFinTechなどIT技術の高度化

## T&D保険グループにとっての今後10年の環境認識

### 機会

- ・ 少子高齢化の進展・人口減少に伴い若年層の人口は減少するものの、シニア層の人口は増加傾向が継続。また、将来に備えた自助努力のニーズも拡大するなど生活保障ニーズは多様化。
- 当社グループがフォーカスしているマーケットにおいては新たなビジネスチャンスが生まれる。

### 脅威

- ・ 環境が大きく変化する中で、競争は一層激化。
- 資産運用の高度化や外部成長の取込み等による収益力の向上や、グループシナジー追求による効率化等により、競争力の向上に取組むことが必要。

# 今後10年を見据えた環境認識②

## 中核生保3社がフォーカスするマーケットにおける新たなビジネスチャンス

### 太陽生命

家庭市場

シニア層の人口の増加、一人暮らしの高齢者世帯の増加、年金・医療・介護における自助努力の必要性の高まりなど

→ 家庭市場の開拓領域は一層拡大

### 大同生命

中小企業市場

法人契約市場の“トータル保障提案”推進によるシェア拡大に加え、シニア層とも重なる経営者個人・個人事業主層の生活保障ニーズの高まりなど

→ 中小企業市場の開拓領域は一層拡大

### T&Dフィナンシャル 生命

乗合代理店市場

ニーズ・ライフスタイルの変化等によるチャネルの多様化に加え、シニア層の人口の増加に伴う資産形成・相続対策等ニーズの高まりなど

→ 乗合代理店市場の開拓領域は一層拡大

# 【参考】中核生保3社のマーケットデータ

## 太陽生命

### 65歳以上人口の将来推計 (\*1)



### 65歳以上単独世帯数の将来推計 (\*2)

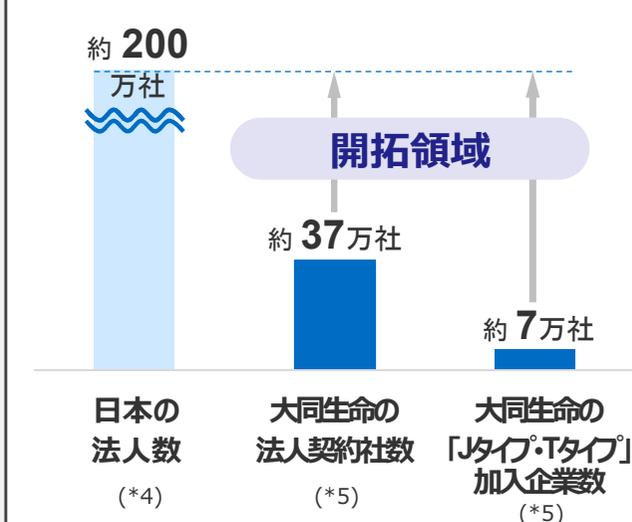


### 社会保障に係る費用の将来推計 (\*3)



## 大同生命

### 法人契約市場



### 個人契約市場

経営者個人に加え、  
200万 (\*4)を超える個人事業主

開拓領域

## T&Dフィナンシャル生命

### 1世帯当たり貯蓄現在高 (二人以上の世帯) (\*6)



### 最近5年以内に銀行を通じて生保に加入した割合 (\*7)



### 来店型保険ショップの 新規契約件数 (\*8)



\* 各データの出典は、P 43に掲載。

# 【出典】中核生保3社のマーケット・データ

	本資料上のデータ名	出典
*1	65歳以上人口の将来推計	国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」(出生中位(死亡中位)推計)
*2	65歳以上単独世帯数の将来推計	国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(2013年1月推計)」
*3	社会保障に係る費用の将来推計	厚生労働省「社会保障に係る費用の将来推計の改定(平成24年3月)」
*4	日本の法人数、個人事業主数	総務省「平成26年経済センサス基礎調査(確報)」
*5	大同生命の法人契約者数、大同生命の「Jタイプ・Tタイプ」加入企業数	大同生命の2016年度末実績
*6	1世帯当たり貯蓄現在高(二人以上の世帯)	総務省「家計調査報告(貯蓄・負債編)ー平成28年(2016年)平均結果速報ー(二人以上の世帯)」
*7	最近5年以内に銀行を通じて生保に加入した割合	一般社団法人 全国銀行協会「銀行による保険窓販に関する消費者アンケート 調査結果 報告書(2017年2月)」
*8	来店型保険ショップの新規契約件数	株式会社 矢野経済研究所「来店型保険ショップ市場に関する調査結果を実施(2017年)」(2017年4月5日発表)

# グループ資本政策

- グループ管理指標として ESR の中立水準を定めることにより、リスク・リターンの戦略的意思を示し、必要水準を維持するとともに、適正なリスクテイクにより資本効率性を向上。
- 資本の十分性が維持されていることを前提に、株主還元水準を「**実質利益の40%以上**」へと引き上げ、現金配当の引き上げおよび中間配当を実施するとともに、自己株式取得の機動性を向上。  
(還元水準の引き上げは、2015年度決算より先行適用)

## ERMの戦略的活用

### 資本十分性の確保

**ESR<sup>(\*1)</sup> 必要水準**      **133%<sup>(\*2)</sup> 以上**

(\*1) ESR (Economic Solvency Ratio) は、経済価値ベースでの信頼水準99.5%のリスク量に対するソルベンシー比率  
(\*2) ESR 133%は、現在のリスクプロファイルを前提として、信頼水準99.93%のリスク量をカバーする水準

両立

### 資本効率性の向上

<b>ESRの中立水準</b>	<b>185%<sup>(*3)</sup> 程度</b>
<b>ROEV<sup>(*4)</sup></b>	<b>中長期的に7.5% 以上</b>
<b>コアROEV<sup>(*5)</sup></b>	<b>中長期的に5.0% 以上</b>

(\*3) ESR 185%は、現在のリスクプロファイルを前提として、信頼水準99.97%のリスク量をカバーする水準  
(\*4) ROEVは、EV増加額（資本増減等を控除）／EVの平均残高  
(\*5) コアROEVは、（新契約価値＋リスクフリーレート部分の期待収益）／EVの平均残高

## 株主還元方針

引き上げ

**実質利益の40%以上の  
株主還元を実施**

引き上げ・新規実施

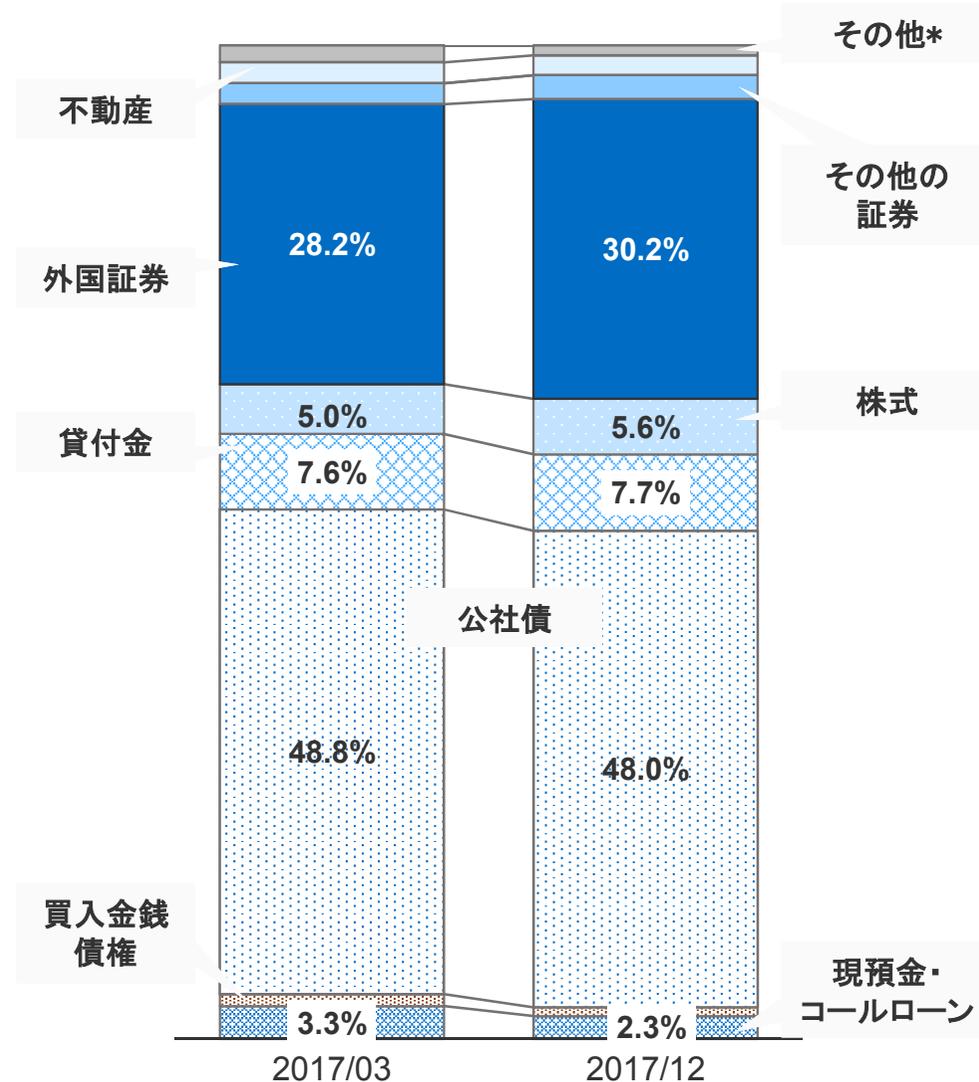
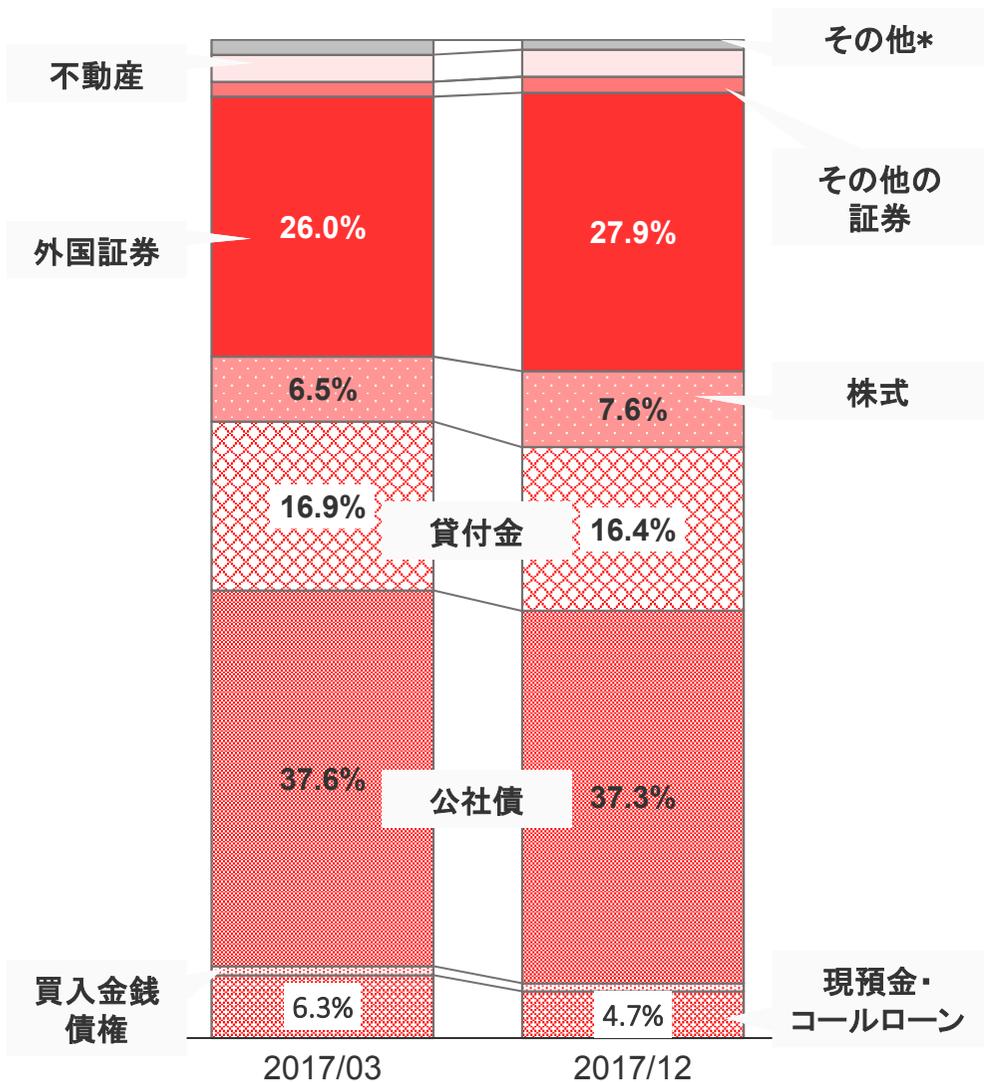
**安定的な現金配当、  
中間配当の実施**

+

機動性向上

**機動的な  
自己株式の取得**

# 資産運用状況：太陽生命・大同生命



\*その他資産：繰延税金資産など

# 連結資産構成

(億円)

	2017年 3月末	2017年 12月末	増減額
<b>資産の部</b>			
現預金・コール	8,737	7,008	▲ 1,728
買入金銭債権	1,412	1,178	▲ 233
金銭の信託	5,834	6,763	928
有価証券	110,019	115,805	5,785
貸付金	16,851	16,783	▲ 67
有形固定資産	3,198	3,209	10
無形固定資産	231	255	23
その他資産	2,108	1,664	▲ 444
繰延税金資産	491	3	▲ 487
貸倒引当金	▲ 17	▲ 15	1
<b>資産合計</b>	<b>148,911</b>	<b>152,694</b>	<b>3,783</b>

# 連結損益計算書

(億円)

	2016年 12月期	2017年 12月期	増減額
<b>経常収益</b>	14,390	<b>14,323</b>	<b>▲ 66</b>
保険料等収入	10,762	10,874	111
資産運用収益	3,079	2,890	▲ 189
うち利息及び配当金等収入	2,037	2,097	59
うち金銭の信託運用益	46	140	94
うち有価証券売却益	919	543	▲ 375
うちその他運用収益	17	21	4
うち特別勘定資産運用益	50	81	31
その他経常収益	548	558	10
うち支払備金戻入額	84	58	▲ 25
<b>経常費用</b>	13,061	13,177	115
保険金等支払金	8,784	8,700	▲ 83
責任準備金等繰入額	1,375	1,820	445
資産運用費用	908	658	▲ 250
うち有価証券売却損	397	130	▲ 267
うち有価証券評価損	6	49	43
うち金融派生商品費用	350	345	▲ 4
うちその他運用費用	112	93	▲ 19
事業費	1,471	1,520	49
その他経常費用	522	477	▲ 44
<b>経常利益</b>	1,328	1,146	▲ 182
<b>特別損益</b>	▲ 239	▲ 116	122
契約者配当準備金繰入額	243	205	▲ 37
税金等調整前四半期純利益	845	823	▲ 21
法人税等合計	185	241	56
四半期純利益 *	658	581	▲ 77
<b>四半期包括利益</b>	▲ 519	<b>1,923</b>	<b>2,443</b>

・大同生命: +148億円  
 ・太陽生命: ▲819億円  
 ・T&Dフィナンシャル生命: +776億円

・大同生命: +77億円  
 (うち外国証券: +65億円、その他証券: +12億円)  
 ・太陽生命: ▲17億円

価格変動準備金繰入額: 110億円  
 ・大同生命: 82億円(前年同期比+1億円)、  
 うち超過繰入60億円  
 ・太陽生命: 24億円(前年同期比▲111億円)、  
 ※超過繰入はゼロ

\* 親会社株主に帰属する四半期純利益

# T&Dホールディングス 株価推移

## 当社株価とTOPIXの推移

2018年2月28日  
T&Dホールディングス  
1,779.5円



## 本資料に関するお問い合わせ先

T & Dホールディングス  
経営企画部 IR課  
電話：03（3272）6103

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、計画や予想と異なる可能性があることにご留意ください。



T & Dホールディングス Facebook公式ページ

